

子どもには抱っこを

2006.03.02

インフルエンザ流行の力は、今年はとても弱かったらしく、昨年は5月まで流行が続いたのがもうすでに下火です。今年函館近郊で流行したインフルエンザはワクチンと非常に相性がよかったようで、ワクチンをされた方はかからないかかかっても非常に軽症だったと感じています。インフルエンザの沈静化と引き換えに、感冒や溶連菌感染症が流行しており、喘息の発作を起こして受診される方が多くなっています。また、忙しい日々が続きます。

2月の週末に乳幼児保健講習会に行ってきました。柳田邦男さんの「IT時代と子どもの人格形成」というお話を聞くのが一番の目的。最近起こった子どもによる凶悪犯罪を例に挙げて、インターネットやメディアが及ぼす子どもへの変化について語られておりました。テレビやビデオ、ゲームなどのメディアにどっぷりと浸かっている子どもたちは、人と人という、本来人間が真っ先に大切にしなければならない実在する人とのコミュニケーションを奪ってしまうのだと。それを脱却するためには、親自身もテレビを見ることから離れる「ノーテレビ・デイ」を作って子どもたちとしっかりと向き合うこと。小さいお子さんには、しっかり抱っこをしてお母さん、お父さんが子どもにとっての安心の基地になることが必要だと思います。こどものうちにひょっとすると小学生や中学生でも親にしっかり抱かれるととても安心な気分になります。抱っこされることは、基本的信頼関係という親と子の最も重要な絆を作ってくれます。

「抱き癖がつくから抱っこはあまりしないように。」その昔にはそれなりの理由があったのかもしれませんが。でも、小さな頃の抱っこの重要性は、特に拒食症などのこどもの精神疾患を多く扱っている医師から提唱されています。共通するのは、小さなときにしっかり抱っこされていないのだそうです。今度の土日、テレビを消してお子さんをしっかり抱っこして、お父さんやお母さんの口からいろんなお話しをしてあげてください。